平成２９年度　全国学力・学習状況調査について

1. 全国学力・学習状況調査の結果分析（全体の傾向・成果と課題等）

　＊教科：国語

|  |
| --- |
| 「国語A：主として知識」の結果から、「読むこと」に関する問題の正答率が高く、次いで「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」に関する問題の正答率がやや高いことがわかる。「読むこと」については、「字幕の説明」や「スピーチの構成」「文章の書き方の説明」などで、適したものを正しく選ぶことができていることから、具体的に文の中で活用する力は身についている傾向が読み取れる。「漢字」については「読み」は比較的できているが、「書く」ことが身についていない。意味を理解した上で文章表現の中で漢字を活用する力が身についていないことが、正解にたどり着けない要因と考えられる。また、語彙力の不足もあると推察される。また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する問題の正答率もあまり高くない。「書道」で、全校体制で「書き初め」に取り組んでいるのではあるが、「書道」に関する基本的な学習が不足していると言える。さらには、「古典文学」について作品の概要、歴史的仮名遣いや口語訳などの理解も不十分であるので、興味関心を持たせる工夫が必要と思われる。  　「国語B：主として活用」の結果から、全体として選択式の解答に関しては正答率が高い。特に、登場人物の言葉を抜き出したり、スピーチの実演の意図を理解することは良くできているので、具体的な文章については「読む能力」が身についていると考えられる。しかし、「書くこと」に関する問題の正答率は低く、記述式を苦手としている傾向が如実に表れている。「自分の意見を持つ」ことや「理由を書く」設問に対する苦手意識を克服するために、授業で「書くこと」の課題提示を多くするなどして力を伸ばしていく必要があると考えられる。 |

1. 今後の対策（後期の学習指導や家庭学習、サポートティーチャー等の活用等）

|  |
| --- |
| 「読む能力」は今後も維持していくことが重要である。「言語の時間」で集中して読書をする習慣を身につけているので、今後も継続していき、国語の基礎力を養うべきである。  「漢字」については、「漢字ノート」や「漢字テスト」を継続的に行っていることが身についていないという現状があるので、美しい文章に触れる機会を多くし、文章構成や展開、言葉遣いなどについて学習する時間を設ける取り組みを推奨したい。  また、「自分の意見を持つこと」や「理由を書くこと」については、繰り返し書かせる訓練を積み、「書くこと」に対する抵抗を除くことから始める必要があると思われる。「書くこと」に対する抵抗がなくなると、生徒は「表現することの楽しさ、喜び」を味わうことにつながり、さらには「書きたい」という意欲へと発展していくのではないだろうか。この「表現することの楽しさ、喜び」につなげるためには、意欲につながる「評価」が必要である。「友達の評価」「教師の評価」など、周囲から多くの評価を得る機会をもつことによって「書く力」は磨かれていくものと思われる。  さらに、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、知識として定着させ、後世への担い手となるような生徒を育てていけるように、伝統的な作品を丁寧に学習することが肝要であると考える。 |